

令和4年度 秋桜高等学校 学校評価

I 中期的目標

<p>1 生徒一人ひとりとしっかり話し合い、各人の目標に応じた学習計画に従って指導する。</p> <p>(1) 各人の目標に応じた学習計画に基づいて指導するために、各生徒に自らの興味や関心について意識させ、それぞれの目標を見定める機会を持つ。</p> <p>(2) 目標に応じた学習計画を立てるための助言を行い、学習の動機付けや指導の指針とする。</p> <p>2 基本的生活習慣の確立を図り、学校生活が心地よく過ごせるよう、全教職員で取り組む。</p> <p>(1) 各行事における生徒と教職員、生徒同士の交流が貴重な機会という意識を持って臨む。</p> <p>(2) 基本的生活習慣の確立を図るにあたって、計画的なレポート作成や授業受講および特別活動への参加等についての相談に応じる。</p> <p>(3) 特別活動などを通じて人間関係形成の機会とし、家庭を含む生活習慣に関しても助言する。</p> <p>(4) 学校生活が心地よく過ごせるような配慮として、交流に際しては、各生徒が心を開きやすく楽しい会話ができるような雰囲気を重視する。</p> <p>(5) 校舎や教室の美化に務め、落ち着いた学習環境と交流の場を提供することに留意する。</p> <p>(6) 生徒一人ひとりとしっかり話し合うために、生徒との面談や保護者を交えた懇談および授業を含む日常の学校生活の中での交流を行う。</p> <p>(7) いじめや暴力のない学校づくり、学習指導・教科指導の内容を、保護者懇談等で説明する。</p> <p>3 教職員間の情報交換がしっかりできるよう工夫し、生徒一人ひとりを大切にした教育に全教職員で取り組む。</p> <p>(1) 生徒一人ひとりを大切にした教育のために、全教職員で各人の事情を尊重し、肯定的態度で接しつつ、その折々の心情を把握することに努める。</p> <p>(2) 職員会議等の機会のみならず、日常における情報交換を行い、相談できる機会を持つ。</p> <p>(3) 教職員間の情報交換がしっかりできるよう工夫として、教育活動における諸々の課題を教職員が孤立して抱え込むことのないように協力する。</p>

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [令和5年4月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>○生徒 別紙「生徒に対するアンケート」参照。</p> <p>○保護者 別紙「保護者に対するアンケート」参照。</p> <p>○教職員 別紙「本校教職員に対するアンケート」参照。</p> <p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業や各種行事等を含む日常の生徒との交流・指導および保護者との懇談等をもとに、教職員は目標を理解しつつ活動している。 ・定期的、臨時的な会議および日常的な意見交換の場において確認された教職員の認識によれば、重点目標について各教職員の理解と協力が得られたと思われる。 ・前年度に引き続き上記のような取り組みを実行し、その結果は当年度においても全般的に目標に沿った効果を見ることができたと考えられる。 ・コロナ禍が始まってから3年目となり、過去2年間で議論された「特別活動」のあり方や日常の教育活動について教職員間で確認・整理されてきたこともあり、感染予防に気をつけながらではあるができるだけ平常の教育活動を実施していく方向で進めた。9月の「キャンプ」については、前年度には実施場所を学校の近くにして日帰りで行ったが、今年度は比較的近場で1泊で行うことにした。また、「スノーボード研修」は議論の末、近場での実施が難しいこともあり断念せざるを得なかったが、代替の行事として「冬キャンプ」を設定し1泊で実施した。その他の行事は平常通り実施でき、日常の教育活動が戻ってきたと言える。 	<p>学校評価委員会実施日：令和5年6月30日（構成委員6名）</p> <p>1 自己評価の結果内容が適切かどうか 適切である（6）人・適切でない（0）人・わからない（0）人</p> <p>2 自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか 適切である（6）人・適切でない（0）人・わからない（0）人</p> <p>3 学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切かどうか 適切である（6）人・適切でない（0）人・わからない（0）人</p> <p>4 学校運営の改善に向けた実際の実践が取組が適切かどうか 適切である（6）人・適切でない（0）人・わからない（0）人</p> <p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事に関する生徒向けアンケートが大きく下がっているが、令和4年度ではなく、コロナが5類移行になった令和5年度がどのような評価になるかで、今後を検討していくべきだと思う。 ・校内美化について、教職員・生徒の日々の意識付けも大切なのではないか。 ・保護者に対するアンケート項目の中で、一番「よく感じる」の数値が高かった「教員は生徒とのコミュニケーションを大切にした指導をおこなっている。」の点で、その子がその子らしくいられる学校であり、一人ひとりのことを教職員がよく知ってくれていることがそれぞれの安心につながっている。例えば、教職員が生徒全員の名前を覚え呼びかけて話しかけてくれることで、大事にされているということが伝わっているからではないか。

2 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒一人ひとりとしてしっかり話し合い、各人の目標に応じた学習計画に従って指導する	<p>(1) 各人の目標に応じた学習計画に基づいて指導するために、各生徒に自らの興味や関心について意識させ、それぞれの目標を見定める機会を持つ。</p> <p>(2) 目標に応じた学習計画を立てるための助言を行い、学習の動機付けや指導の指針とする。</p>	<p>・継続課題として前年度より「学校づくり、学習・教科指導の充実についての保護者の認識」については、引き続き取り組む。</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価（教職員）① 「本校の教育理念および方針に基づいて校務に取り組んでいる」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。 ・自己評価（教職員）② 「時間割や開講科目等、教育カリキュラムを工夫している」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。 ・自己評価（教職員）④ 「生徒が興味を持って参加できる授業になるように工夫している」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。 ・自己評価（教職員）⑤ 「生徒の意欲を引き出す取り組みやすいレポートとなるように工夫している」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。 ・学校評価（生徒）① 「授業に無理なく出席できるよう、時間割が工夫されている」の肯定的評価が92.0%（前年度実績89.1%）。 ・学校評価（生徒）③ 「授業は、興味を持って参加しやすいように工夫されている」の肯定的評価が88.7%（前年度実績89.8%）。 ・学校評価（生徒）④ 「レポートは、取り組みやすいように工夫されている」の肯定的評価が91.2%（前年度実績88.4%）。 ・学校評価（保護者）② 「授業は、興味を持って参加しやすいように工夫されている」の肯定的評価が84.0%（前年度実績80.4%）。 ・学校評価（保護者）③ 「レポートは、取り組みやすく生徒の意欲を引き出すよう工夫されている」の肯定的評価が87.0%（前年度実績87.8%）。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価（教職員）③ 「生徒の状況に応じて学習のサポートをしている」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。 ・学校評価（生徒）② 「先生たちは、一人ひとりの状況に応じて学習のサポートをしている」の肯定的評価が94.4%（前年度実績93.2%）。 ・学校評価（保護者）① 「教員は、生徒一人ひとりの状況に応じて学習のサポートをしている」の肯定的評価が94.6%（前年度実績91.9%）。 	<p>前年度のアンケート結果と比較して、肯定的評価が増加している項目が増えた。今年度も概ね学校運営、教育活動に対し、理解を得ていると評価する。</p> <p>学校評価（生徒）① 「授業に無理なく出席できるよう、時間割が工夫されている」の肯定的評価が2.9%増加していることについては、時間割の設定としては従来通りであったが、以前は不安のため最小限しか登校できなかった子どもたちが、コロナ禍が一定収束したことにより、安心して登校できるようになった。よって、必然的に授業を受ける機会が多くなり、ゆとりが生まれたと評価できる。</p> <p>学校評価（生徒）④ 「レポートは、取り組みやすいように工夫されている」の肯定的評価が2.8%増加していることについては、同様にコロナ禍の収束に伴い、生徒の登校頻度が増え教員とレポートに取り組む機会が増えたものと評価できる。</p> <p>学校評価（保護者）①②が前年度に比べ、肯定的評価が増加している。コロナ禍で通常通り実施できていなかった体育実技や特別活動などが、これまで通り実施できるようになったことや、学校生活を心配なく送れるようになり、学校で過ごす時間も増え、そのことにより家庭で話す機会が増えたものと評価できる。また、担任を始めとし、生徒とつながりのある教職員が折に触れ、学校での様子を意識して保護者に伝えていることの表れだと考えられる。</p>

(1) 各行事における生徒と教職員、生徒同士の交流が貴重な機会という意識を持って臨む。

(2) 基本的な生活習慣の確立を図るにあたって、計画的なレポート作成や授業受講および特別活動への参加等についての相談に応じる。

(3) 特別活動などを通じて人間関係形成の機会とし、家庭を含む生活習慣に関しても助言する。

(4) 学校生活が心地よく過ごせるような配慮として、交流に際しては、各生徒が心を開きやすく楽しい会話ができるような雰囲気を重視する。

(5) 校舎や教室の美化に務め、落ち着いた学習環境と交流の場を提供することに留意する。

(6) 生徒一人ひとりとしっかり話し合うために、生徒との面談や保護者を交えた懇談および授業を含む日常の学校生活の中での交流を行う。

(7) いじめや暴力のない学校づくり、学習指導・教科指導の内容を、保護者懇談等で説明する。

- ・継続課題として前年度より「宿泊研修等の特別活動への有意義な参加についての生徒の認識」については、引き続き取り組む。
- ・特別活動については、活動内容の企画・立案や生徒参加の留意点等について、慣例的・固定的なものにこだわることなく、充実したものとなるよう努める。
- ・何よりも「楽しい学校」であるべく工夫し、各生徒が自らも他からも肯定されることから始めることによって、自信と将来への希望を育むことに心がける。
- ・教育方針や生徒指導等に関しては、懇談の機会を重視しながら、教育内容に関する各種通信文書、「いじめ防止基本方針」のHP掲載等を活用しつつ保護者への周知を進める。

(1)

- ・自己評価(教職員)⑥ 「生徒が楽しくいきいきと参加できる学校行事となるよう考えている」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。
- ・学校評価(生徒)⑤ 「特別活動(学校行事)は、楽しくいきいきと参加できるものになっている」の肯定的評価が77.4%(前年度実績84.9%)。
- ・学校評価(保護者)④ 「学校行事は、生徒が楽しく参加できるよう考えられている」の肯定的評価が93.9%(前年度実績92.5%)。

(2)

- ・自己評価(教職員)⑦ 「どの学校行事にも生徒が参加しやすいよう丁寧に働きかけている」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。

(3)

- ・自己評価(教職員)⑧ 「生徒の基本的な生活習慣の確立につながるよう学校生活や行事の中で支援している」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。

(4)

- ・自己評価(教職員)⑨ 「生徒同士がつながり、学校生活が心地よく過ごせるよう環境づくりを工夫している」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。

(5)

- ・自己評価(教職員)⑩ 「校舎や教室の美化に努めている」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。
- ・学校評価(生徒)⑥ 「教職員は、安心して過ごせる学校となるよう取り組んでいる」の肯定的評価が88.7%(前年度実績90.4%)。
- ・学校評価(生徒)⑦ 「清掃が行き届いている」の肯定的評価が85.5%(前年度実績88.4%)。
- ・学校評価(保護者)⑤ 「教職員は、安心して過ごせる学校となるよう取り組んでいる」の肯定的評価が94.7%(前年度実績96.7%)。
- ・学校評価(保護者)⑥ 「清掃が行き届いている」の肯定的評価が93.9%(前年度実績90.6%)。

(6)

- ・自己評価(教職員)⑪ 「生徒ならびに保護者に対して、丁寧に進路相談や懇談を行っている」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。
- ・学校評価(生徒)⑧ 「先生たちは、一人ひとりの進路について丁寧に相談にのっている」の肯定的評価が80.7%(前年度実績85.0%)。
- ・学校評価(保護者)⑦ 「懇談や進路相談などが丁寧にこなわれている」の肯定的評価が96.2%(前年度実績95.9%)。

(7)

- ・自己評価(教職員)⑫ 「生徒ならびに保護者に対して、丁寧に情報を発信している」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。
- ・学校評価(生徒)⑨ 「教職員は、郵送や電話などを通して丁寧に連絡をしている」の肯定的評価が97.6%(前年度実績93.2%)。
- ・学校評価(保護者)⑧ 「学習計画が立てられるよう、郵送や電話での連絡が丁寧におこなわれている」の肯定的評価が98.4%(前年度実績97.9%)。

学校評価(生徒)⑤ 「特別活動(学校行事)は、楽しくいきいきと参加できるものになっている」の肯定的評価が7.5%減少していることについては、「スノーボード研修」が4年連続中止となったことが大きい。夏のキャンプは前年度に日帰りから1泊へと前進したが、スノーボードは近場での実施が難しく中止を余儀なくされ、ずっとこの行事を楽しみにしていた多くの生徒を落胆させることとなった。

しかしながら、学校評価(保護者)④「学校行事は、生徒が楽しく参加できるよう考えられている」の肯定的評価は1.4%増加している。スノーボードではないが、せめて宿泊の行事をとの思いで、近所で1泊の冬キャンプを実施したことに対する評価が大きいのではないかと考えられる。

学校評価(保護者)⑤、(生徒)⑥「教職員は、安心して過ごせる学校となるよう取り組んでいる」の肯定的評価が減少していることについては、コロナ禍による様々な制限とそれが徐々に解除されていく中で、開放的になっていく生徒と不安を抱えている生徒が混在し、安心感が担保されない状況が生まれてしまったことが想像される。

そういった不安な状況の中で、将来や進路について落ち着いて考えることが難しくなったことが、学校評価(生徒)⑧「先生たちは、一人ひとりの進路について丁寧に相談にのっている」の肯定的評価が4.3%減少していることともつながっていると考えられる。

一方で、学校評価(保護者)⑦⑧や(生徒)⑨の肯定的評価は増加している。学校側の努力や工夫を理解してくれている保護者が、増えていると考えられる。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 教職員間の情報交換がしっかりとできるように工夫し、生徒一人ひとりを大切にした教育に全教職員で取り組む。</p>	<p>(1) 生徒一人ひとりを大切にした教育のために、全教職員で各人の事情を尊重し、肯定的態度で接しつつ、その折々の心情を把握することに努める。</p> <p>(2) 職員会議等の機会のみならず、日常においての情報交換を行い、相談できる機会を持つ。</p> <p>(3) 教職員間の情報がしっかりできるような工夫として、教育活動における諸々の課題を教職員が孤立して抱え込むことのないように協力する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・継続課題として前年度より「各教職員間の情報伝達」については、引き続き取り組む。 ・各教職員間においては、適切な個人情報の保護に配慮しつつ、できるだけ開放的な情報環境の構築に努め、各種行事の内容・日程および校務運営全般の企画・調整、教育課程検討、生徒指導指針、人権教育をはじめとする各種研修、進路指導、カウンセリング、広報活動等の校務分掌各部の分担業務について、教職員間での連携・協力を奨励する。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価（教職員）③ 「生徒とのコミュニケーションを大切にしたい指導を行っている」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。 ・学校評価（生徒）⑩ 「先生たちは、生徒とのコミュニケーションを大切にしたい指導をおこなっている」の肯定的評価が91.2%（前年度実績94.5%）。 ・学校評価（生徒）⑪ 「教職員は、生徒が相談しやすい関係づくりを心がけている」の肯定的評価が89.5%（前年度実績89.8%）。 ・学校評価（生徒）⑫ 「この学校に入学してよかったと思う」の肯定的評価が94.4%（前年度実績93.8%）。 ・学校評価（保護者）⑨ 「教員は、生徒とのコミュニケーションを大切にしたい指導をおこなっている」の肯定的評価が99.2%（前年度実績96.6%）。 ・学校評価（保護者）⑩ 「教職員は、生徒や保護者が相談しやすい関係づくりを心がけている」の肯定的評価が98.4%（前年度実績97.3%）。 ・学校評価（保護者）⑪ 「校風・雰囲気が良い」の肯定的評価が94.6%（前年度実績91.8%）。 ・学校評価（保護者）⑫ 「この学校に入学させてよかったと思う」の肯定的評価が98.5%（前年度実績97.3%）。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価（教職員）⑭ 「学校生活上で問題が起こった場合、その都度全員で話し合い、対応している」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。 ・自己評価（教職員）⑮ 「生徒についての情報を丁寧に交流し、各個人に応じた指導を行っている」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。 ・自己評価（教職員）⑯ 「職員会議やその他の会議等は、誰もが発言できる機会となっている」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価（教職員）⑰ 「教職員の資質向上につながるような研修の機会を設けている」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。 	<p>学校評価（生徒）⑩ 「先生たちは、生徒とのコミュニケーションを大切にしたい指導をおこなっている」の肯定的評価が3.3%、また学校評価（生徒）⑪「教職員は、生徒が相談しやすい関係づくりを心がけている」の肯定的評価がわずかではあるが減少している。コロナ対応で変更を余儀なくされた教育活動のために、教職員会議や打ち合わせの時間が増え、そのことで生徒と話す時間や楽しく過ごす時間が減少したことが原因だろうと考える。</p> <p>しかしながら、学校評価（保護者）⑨⑩⑪の肯定的評価がどれも増加していることから、難しくなったこともある中で、教職員が時間をかけて思いを共有しながらそのときできる最善の方法を考え、丁寧に提示もしたうえで、従来やっていたものに代わる（冬キャンプといった）教育活動を行ってきたことに対して、一定の理解を得ていると捉えることができる。</p> <p>また、学校評価（生徒）⑫「この学校に入学してよかったと思う」、（保護者）⑫「この学校に入学させてよかったと思う」の肯定的評価がどちらも増加していることから、生徒一人ひとりを大切にする教育の実現のために、教職員が生徒や保護者とのかわりを深く持ち、教職員同士が互いに協力して日々の教育活動を作り上げてきていることにより、学校が安心して自分らしく過ごせる場所になっていることの表れであると考えられる。</p>
--	---	---	---	--